



# ABILITY 2.0 PRO

## ABILITY Pro 徹底攻略!

### その16 さらにエフェクトが充実、新作プラグインを追加!

今回はABILITY 2.0 Proの新しいプラグイン・エフェクトを紹介しましょう。ミックスや音作りには欠かせないエフェクターだけに、選択肢は多い方が可能性が広がりますね。従来から付属しているものに加えて、イコライザー系が2種、ダイナミクス系が2種、ディレイ系が3種、リバーブ系が2種の合計9種類のオリジナル・エフェクトが用意されています。それでは、各エフェクトの特徴を解説していきます。(文：平沢栄司)

#### 新しい9種類の プラグイン・エフェクトをチェック!

新作のプラグインは従来からある定番エフェクトに対して、機能の拡張や音質の向上、そして、64bit環境にも対応させた進化バージョンという位置付けになります(画面1~3)。新作プラグインを中心に音作りやミックスで使っていくのもよし、従来のプラグインとのキャラクターの違いを生かして適材適所で使い分けてみるのも良いでしょう。

#### イコライザー (2種類)

「8BandEQ」はハイとローのシェルビング・タイプとピーキング・タイプの3つの特性が選べる6つのバンドと、ローカット専用のHPF&ハイカット専用のLPFの2つのフィルターを持った8バンドのイコライザーです。主にトラックの音作りに役立つもので、以前のものと比べて、ローカットとハイカットが独立したことで、不要な帯域を素早くカットできることが便利です。そして、他の6つのバンドは通常のEQとして自由に使用できるため、さらにきめ細かな帯域の調整が可能となりました。

「LINEAR PHASE EQ」は「LINEAR PHASE」という名の通り、位相ズレによる音質劣化が起こらないため、高品位なサウンドを得られるのが特徴です。ゆえに、2MIXのOUTPUTやマスタリングなど、最終段階の調整で活用したいイコライザーと言えます。こちらはローカット専用のHPF、ハイとローのシェルビング・タイプとピーキング・タイプのEQ、ハイパスとローパスのフィルターの5つのモードが選べる5つのバンドで計6バンド構成になります。



画面1 位相のズレがなく、高品位なサウンドが得られるイコライザーとマルチバンドコンプを追加。2MIXやマスタリングなどの仕上げの工程で威力を発揮する

どちらのEQも画面上部のグラフィック表示部で、ドットをドラッグしながら各バンドの調整ができることや、その背景部分のスペアナ表示をONにすれば、周波数分布を確認しながら操作できることが便利です。

#### コンプレッサー (2種類)

「CompGate」はノイズゲートとコンプレッサーを組み合わせたプラグインです。コンプはトラックの音作りにおいて必須なので、SonnoxのEQ(イコライザー)と合わせて、デフォルトでトラックにインサートされています。ルックスもかっこ良く、スタジオで見かけるようなアナログ調のメーターが目を引きまます。パラメーターはオーソドックスなので扱いやすく、サイドチェイン入力にも対応しているので、EDMなどのダッキングを生かした音作りにも応用できます。また、ノイズゲートを組み合わせたことにより、コンプを効かせた時に目立ちやすい無音部分のノイズをカットできる点もポイントでしょう。

「LINEAR PHASE MULTIBAND COMPRESSOR」は帯域ごとにコンプの効きを調整することでバランスを整えつつ、さらなる音圧アップを図る、マスタリングで重宝するコンプレッサーです。先ほどの「LINEAR PHASE EQ」と同様に、帯域によって位相差が発生しないのが特徴で、従来の「MULTIBAND COMPRESSOR」と置き換えるエフェクトになるでしょう。使い方は新旧共に一緒で、帯域を4つに分割し、それぞれに1機ずつコンプを割り当てて調整していきます。その際、上段のグラフィック表示部ではマウスで各帯域の境界を調整したり、ゲインの調整ができるので、コンプがイマイチ苦手な人でもEQのような感覚で直感的に使えそうです。

#### ディレイ (3種類)

「STEREO DELAY」はオーソドックスなステレオ2chのディレイです。ピンポン・ディレイに設定して左右に音を飛ばしたり、微妙にディレイタイムをズラして、左右に広げるといった定番の音作りで活躍します。

「MODULATION DELAY」はディレイタイムを内蔵のLFOで揺らすことができるディレイです。デ



画面2 トラックの音作りには欠かせないイコライザーとコンプも進化した。操作性と機能はもちろん、見た目にも優れている「CompGate」が魅力的だ

レイ音に揺らぎを加えて、温かみのあるサウンドにしたり、ディレイタイムの調整と合わせれば、フランジャーからコーラスまで好みのニュアンスでモジュレーション系エフェクトの効果を再現することもできます。

「MULTIBAND DELAY」はちょっと個性的で、4つに分けた帯域のそれぞれにディレイを1機ずつ割り当てて、個別に設定できるものです。これは2MIXの中の一部の帯域だけにディレイをかけたい、普通のディレイとは違うエコー感が欲しいなど、ちょっとトリッキーな効果が欲しい時に威力を発揮するでしょう。

いずれのディレイも一般的なミリ秒での設定に加え、てソングのテンポや任意のテンポに対して音符の長さでディレイタイムの指定ができるため、「8分遅れのディレイ」といったセッティングが簡単なのがよいと言えます。

#### リバーブ (2種類)

「IR REVERB」は実在するホールなどの特性をサンプリングしたIRファイルを元に、演算によって残響効果を再現するリバーブです。ややCPUの負荷は高めですが、その分、より自然なアンビエント感が得られる高品質なリバーブ効果が特徴です。アコースティックなジャンルのミックスやボーカルなどの生音に使ってみると良いでしょう。

「REVERB 2」はオーソドックスなデジタルリバーブで、IRリバーブと比較するなら、「いかにリバーブ」というような少々派手なサウンドに特徴があります。馴染みのあるパラメーターが並ぶので、セッティングもやすく、ナチュラルな残響から個性的なサウンド・メイクまで幅広く使うことができます。

いずれも3バンド+ローパス/ハイパスによる5バンド仕様のEQを内蔵しているため、リバーブ自体のパラメーターとは別の角度から残響の味付けが可能です。

次回は新しいソフト音源のプラグインを紹介する予定です。



画面3 エコー系もバリエーションが豊富。定番のIRリバーブを標準装備し、画面の「MULTIBAND DELAY」のような個性派も含む、ディレイの充実ぶりにも注目だ